

信越化学工業株式会社

2023年3月期第3四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2023年1月26日(木) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	2023年3月期第3四半期 決算短信

* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 2023年3月期第3四半期(10-12月期)

連結売上高: 7,539億円(前年同期比 39%増)

営業利益: 2,719億円(前年同期比 50%増)

経常利益: 2,651億円(前年同期比 42%増)

純利益: 1,861億円(前年同期比 41%増)

8四半期連続対前年同期比増益。

- 9ヶ月の累計では、売上高は約5割増加、利益は約7割増加を達成。

[セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】:

塩ビ樹脂のアジア市況は昨年11月に底打ちし、その後反転。米国市場では今月、ポンド当たり6セントの値上げに取り組んでいる。加えて、2月で4セントの値上げも打ち出した。塩ビ樹脂の在庫調整は終息しつつある。米国での住宅着工は先月、前月比で下げたが、138万戸であった。住宅は依然不足している。実際、住宅の在庫は減っており住宅は建設されねばならない。

ソーダは北米、アジアともに需要は概ね安定。

- 【電子材料】:

半導体の前工程材料は、顧客から数量調整の要請が出てきたが、応ずる場合は最小限としかつ双方にとって良い形でまとめている。尚、操業は概ねフル生産を継続中。

希土類磁石に対する需要はHDDで在庫調整が終わりつつある。

顧客はみな電子化・電動化、HPC、GXは続くと確信しており、投資を進めている。短期的な調整と基礎需要を分別しながら、能力増強を行うことに変更はない。

- 【機能材料】：
汎用品の市場はやはり中国の動向に左右されがちだが、当社の強みである機能品・特殊品を伸ばしている。供給態勢の強化は継続。
- 【加工・商事・技術サービス】：
工程内用ウエハーケースも含めて、ケース需要に今のところ変化なし。

[今期業績見込みおよび株主還元について]

- 10-12月期の結果と1-3月期の見込みを踏まえて、今期通年の決算予想を上方修正。売上高2兆7,800億円、経常利益は1兆円の大台に乗る1兆200億円と予想。
- 通期予想の修正に伴い、配当予想を50円引き上げ、通期で500円とする。
- 株式分割=2023年3月31日現在の株式1株を4月1日付で5株に分割。
- 経済情勢は刻一刻と変化しているが、短期的な対策を俊敏にこなしながら、事業をさらに伸ばす手立てを着実に講じていく。

【補足説明（広報部長 福井真二）】

- 2023年3月期の設備投資額は約3,000億円、減価償却費は約2,150億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1円の変動でUSドルは年間58億円、ユーロは年間3億円。

【質疑応答】

〈生活環境基盤材料〉

Q	米国塩ビの値上げ打ち出しの背景について
A	・ アジアを中心とする海外市況の反転、北米における春需の動向、コストの事情、これら三点を踏まえ、値上げを打ち出しました。このような事情から、値上げができると考えています。昨年末の寒波が引き金となって値上げを打ち出したわけではありません。
Q	シンテックの10-12月の業績について
A	・ 7-9月に比べれば減益、前年同期と比べやや減益となる見込みです。
Q	市場価格とシンテックの販売価格との差について
A	・ 当社はお客さまとじっくり話し込み、お客さまの事情も考慮しながら双方に良い形で交渉を行い、値上げを通すときはきちんと通してきました。ある時期で手心を加えたから、その分だけ下がった時にお客さまの方が手心を加え

	<p>てくれるという、ギブ&テイクのようなことには必ずしもなっていませんが、いずれにしろ値段についてはきめ細かく対応しています。総合的に見て総平均で当社の売値が同業他社よりも高いということは考えられます。</p>
Q	<p>北米からの輸出が増えている理由、輸出が増えることによる採算への影響について</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出が増えているのは、インド向けの出荷だと思えます。インドは大変需要が強く、相当量の輸入をしています。 ・ 内外価格差（北米価格と海外価格の差）はありますが、全体で収益を上げていくために、北米と輸出の値段をそれぞれ底上げすべく取り組んでいきます。 ・ 業界統計では、昨年1年で輸出比率は約3割、先月（12月）は4割を超えるような水準になっています。

〈電子材料〉

Q	<p>半導体ウエハーのQ3（10-12月期）の出荷量動向について</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7-9月から比べるとおしなべてマイナス成長という形になりました。口径別では、150mm以下のウエハーは夏過ぎから始まった減速が継続、200mmは比較的堅調、300mmはメモリー向けで秋口から調整が入りました。
Q	<p>半導体ウエハーのQ4（1-3月期）の需要見通しについて</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットはQ3に比べて需要は低下すると見ています。調整が多いのは150mm以下です。200mmと300mmも調整局面ですが300mmの調整が若干大きいと考えています。300mmはメモリー向けが秋口から調整に入っているのに加え1月からロジック向けも調整が開始されました。ウエハー市場全体（全口径）で1割程度の調整があると考えています。
Q	<p>長期契約下での調整について</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期契約のあるお客さまからの数量調整の要請に対しては、短期での納期調整や契約内容に見合う価格の値上げ等ていねいに話し合い、双方にとって良い形での調整となるよう対応しています。
Q	<p>2023年のウエハー見通しと当社の生産動向について</p>
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半導体デバイス市場の見通しについては、今年の前半で調整が終わり、7月以降回復すると見込んでいるお客さまが多いようです。従ってウエハーの需要は1-3月期を底に年後半にかけて徐々に上がっていくと見ています。

	<ul style="list-style-type: none"> 当社のウエハー在庫が低下しているため、在庫を積み増すため、1-3月以降も高水準の生産を続ける予定です。
Q	半導体ウエハーの投資について
A	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの多くは、今年後半に市場は回復してくると見ており、2024年以降の当社のグリーンフィールド投資は、予定どおり長期契約に基づき増強を進める考えです。
Q	レア・アースマグネット事業の状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> HDDの在庫調整は終わりつつあり、春にかけて需要は戻ってくるという見方をしています。 FA用はやや調整色が出ていますが、その他、車載用や空調用を含めてお客さまも色々な工夫をされているので、それに合う製品を用意して、総合力で対応しています。 3Qと4Qではそれほど状況が変わらないと見ています。

〈機能材料〉

Q	機能材料セグメントの状況について
A	<p>(セグメント全般について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用性の強い製品の市場で需給の緩みがありました。 <p>(シリコン事業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 機能性製品や特殊品はお客さまごとに作り込んでいく品物でもあるので、お客さまの需要状況によって強弱は出てきますが、幅広く色々な市場で拡販していきます。 <ul style="list-style-type: none"> 中国の状況には大きな関心を寄せています。報道にあるような状況で、大きく消費が回復することも期待されます。その中で化粧品などが伸びることも期待し、それに向けて拡販の努力をしています。 <p>(セルロース事業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に製剤関係が伸びています。総じて薬の需要が強いと言えます。 ヨーロッパでも高付加価値の製剤用ほかを、ますます伸ばしていくよう取り組んでいます。

〈全 社〉

Q	新事業の動向について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 色々な試みが進展しています。例えば、負極材料は一つの事業として運営していく体制が整い、増産し売上を徐々に増やしています。・ SiC や GaN 基板、マイクロ LED といった新製品もお客さまでの評価が進んでいて、来期にかけて期待をしているところです。
Q	通期予想の上方修正の背景について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 第 2 四半期でも上方修正をしましたが、下半期の予想を厳しめに見ていました。第 3 四半期までの実績と第 4 四半期の見通しを踏まえ、上方修正をする要件が整い見直しました。
Q	株式分割について
A	<ul style="list-style-type: none">・ 株式分割については、東証の投資単位に関する要請を受けて、定期的に検討をしてきました。今回、株主のすそ野を広げることが必要だとより強く感じるようになり、実施に踏み切りました。
Q	配当についての考え方
A	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的な考え方に変化はありません。・ 今回、収益の水準を踏まえて追加の増配をさせていただきました。これまでどおり、長期にかつ安定的にという方針を今後も保っていきたいと考えています。